

福祉サービス第三者評価結果報告書【令和4年度】

年 月 日

東京都福祉サービス評価推進機構  
公益財団法人 東京都福祉保健財団理事長 殿

〒 160-0023  
所在地 東京都新宿区西新宿6-15-1  
セントラルパークタワー ラ・トゥール新宿707

評価機関名 特定非営利活動法人福祉総合評価機構

認証評価機関番号 機構 03 - 081  
電話番号 03-6279-0331  
代表者氏名 理事長 中込 重秋



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

| 評価者氏名・担当分野・評価者養成講習修了者番号                                | 評価者氏名   |                  | 担当分野  | 修了者番号    |
|--|---|------------------|-------|----------|
|  | ①   | 小出 正治            | 福祉、経営 | H0702006 |
|  | ②   | 柳 修二             | 福祉、経営 | H0702077 |
|  | ③   | 山村 弘             | 福祉、経営 | H0902065 |
|  | ④   | 米田 太郎            | 福祉    | H1001023 |
|  | ⑤   |                  |       |          |
|  | ⑥   |                  |       |          |
| 福祉サービス種別   | 認可保育所   |                  |       |          |
| 評価対象事業所名称  | 上池台保育園  |                  |       |          |
| 事業所連絡先   | 〒   | 145-0064         |       |          |
|  | 所在地   | 東京都大田区上池台5-11-17 |       |          |
|  | TEL   | 03-3727-2997     |       |          |
| 事業所代表者氏名   | 片瀬 裕紀   |                  |       |          |
| 契約日  | 2022 年 8 月 1 日  |                  |       |          |
| 利用者調査票配付日(実施日)   | 2022 年 12 月 5 日   |                  |       |          |
| 利用者調査結果報告日   | 2023 年 2 月 10 日   |                  |       |          |
| 自己評価の調査票配付日  | 2022 年 11 月 14 日  |                  |       |          |
| 自己評価結果報告日  | 2023 年 2 月 10 日   |                  |       |          |
| 訪問調査日  | 2023 年 2 月 17 日   |                  |       |          |
| 評価合議日  | 2023 年 2 月 17 日   |                  |       |          |
| コメント<br>(利用者調査・事業評価の工夫点、補助者・専門家等の活用、第三者性確保のための措置などを記入) | ・利用者調査は共通評価項目及び事業所と協議のうえ設けた独自質問により、インターネットでのウェブアンケート形態で実施した。また調査開始時に書面の配付やポスター掲示などで保護者の理解促進を図るほか、開始後には提出御礼と未提出者への呼びかけを兼ねたチラシの配付、提出期限の延長など、回答率向上にも努めた。<br>・事業所に対しては開始時の説明や独自資料の提供等により、第三者評価制度や評価項目・標準項目への理解を深めてもらうほか、職員層も標準項目単位で評価を行えるようにするなど、自己評価がより的確なものとなるよう配慮した。 |                  |       |          |

評価機関から上記及び別紙の評価結果を含む評価結果報告書を受け取りました。  
本報告書の内容のうち、

- 機構が定める部分を公表することに同意します。
- 別添の理由書により、一部について、公表に同意しません。
- 別添の理由書により、公表には同意しません。

2023 年 3 月 31 日

事業者代表者氏名

印

|   |  |
|---|--|
| 1 | <p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述<br/>（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一人ひとりを大切にする保育</li> <li>・子どもが自ら環境に働きかける保育</li> <li>・子どもが自分で成長することを信じ、自分でできる・遊べる環境を整えていく</li> <li>・業務省略をすることで、子どものために使える時間を最大限確保する</li> </ul> |
| 2 | <p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <p>子どもの成長発達のために、日々保育の内容をより良いものにするために常に考えることができる人材。また、その為に自己研鑽を惜しまない人材</p> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <p>保育士としての専門性を持ち、子どもの発達を促す環境を設定することができる。また、子どもへの働きかけだけでなく、保護者の支援や地域とのつながりを作っていくことを主体的に計画・実行していく存在になってほしい</p>                                |

## 調査対象

調査開始時点での当園の利用世帯81(在籍児童数101)を対象として実施した。なお、兄弟姉妹がいる世帯は1世帯として扱った。

## 調査方法

調査票及び調査項目は共通評価項目に準拠した。ウェブアンケート形態により実施し、回収は保護者から評価機関への直接電送(外国語世帯のみ調査票の直接郵送)にて行った。結果は選択式・自由記述とも園に報告し、自由意見には回答者の匿名性に配慮した処理を適宜行った。

|                     |      |
|---------------------|------|
| 利用者総数               | 101  |
| 利用者家族総数(世帯)         | 81   |
| 共通評価項目による調査対象者数     | 81   |
| 共通評価項目による調査の有効回答者数  | 46   |
| 利用者家族総数に対する回答者割合(%) | 56.8 |

## 利用者調査全体のコメント

総合的な満足度は「大変満足」50.0%・「満足」32.6%の計82.6%で、設問別では「子どもの気持ちの尊重」「発達に配慮した保育活動」「急な残業等への配慮」「保護者に配慮した行事日程」など、全17問中13問で80～90%台の高い支持を得ている。

自由意見では「大きな園庭が一番すぐれた環境で、職員が木で遊具をDIYしてくれるため子どもたちがうれしそうで、給食では月1回日本・世界の名物が提供され、おやつも工夫された手作りのもので安心できる」「子どもの気持ちを汲み取り、許容してくれ、給食の配膳量、給食を食べる順番を聞き取りしてくれて、各自がやりたい遊びに参加している」「乳児クラスの育児担当制はとてよく、子どものことをしっかり把握してくれているので相談などもしやすく、異年齢クラスも年上の子にかわいがってもらったり、年下の子とも遊べて友達の幅が広がっている気がしてよいと思う」「クラス関係なく、職員全体で子どもを見てくれるようで安心感がある」などの声が寄せられている。

さらなる向上を望む意見としては、日常の保育や行事、保護者の要望・意向への柔軟な対応、職員の退職・異動に関することなどが見られた。

## 利用者調査結果

| 共通評価項目  | 実数 |               |     |            |
|---|----|---------------|-----|------------|
|   | はい | どちらとも<br>いえない | いいえ | 無回答<br>非該当 |
| 1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか   | 44 | 2             | 0   | 0          |
| <p>実質的な満足度(「無回答・非該当」を除いた割合・以下同)は、「はい」が95.7%、「どちらともいえない」が4.3%となっており、「はい」の値は前回(2019年度・以下同、80.0%)からさらに向上している。</p> <p>自由意見は13件で、「他者との関わりを通して成長を感じ、先生との信頼関係があり本人も安心して過ごせ、見守ってくれている」「園庭があり、先生たちの手作りの遊具で楽しく毎日遊んでいる」などのほか、異年齢保育時の子ども一人ひとりへの配慮や職員の人員確保・情報共有について、さらなる工夫を望む声が見られた。</p> |    |               |     |            |
| 2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか   | 42 | 4             | 0   | 0          |
| <p>「はい」が91.3%、「どちらともいえない」が8.7%となっており、「はい」の値は前回(66.2%)から改善されている。</p> <p>自由意見は8件で、「園庭での遊びやわらべ歌など、とても楽しそうに行えていると思う」「自由に友達とさまざまな遊びをしていて、いつも楽しんでいるようだ」「今まで苦手そうだったことも楽しく取り組んだりできるようになった」などのほか、活動内容や保護者への伝達について、さらなる配慮を望む声があった。</p>  |    |               |     |            |
| 3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか   | 40 | 6             | 0   | 0          |
| <p>「はい」が87.0%、「どちらともいえない」が13.0%となっている。</p> <p>自由意見は7件で、「食べやすい大きさや量で、メニューも毎日異なり飽きず、成長に合わせて味つけや硬さも調整してくれている」「状況に応じて早めに食べさせてもらったりしているようで、気遣ってくれていると感じた」「家で作らないものが献立にあるのでいろいろな味つけを食べさせることができて助かり、おやつも手作りのものがうれしい」などのほか、食事の提供量について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>                          |    |               |     |            |

|  |    |    |   |   |
|--|----|----|---|---|
| 4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか   | 38 | 5  | 2 | 1 |
| <p>「はい」が84.4%、「どちらともいえない」が11.1%、「いいえ」が4.4%となっており、「はい」の値は前回(60.0%)から改善されている。自由意見は12件で、「園庭が広く、晴れていればほぼ毎日外で遊ばせてくれる」「広い園庭で安全かつのびのび遊べるのがよい」「園庭が広く、時間を決めて遊んでいるようで、男女関係なくのびのび遊んでいる雰囲気だ」などのほか、戸外活動や行事、社会と関わる機会等のさらなる充実を望む声や、それらの制限の一因となっているコロナ禍に言及する内容が見られる。</p>           |    |    |   |   |
| 5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか   | 37 | 2  | 0 | 7 |
| <p>「はい」が94.9%、「どちらともいえない」が5.1%となっている。自由意見は5件で、「いつも急な残業で1時間の延長をお願いすることがあるが、とても丁寧にそして柔軟に対応してくれている印象だ」「急病で迎えに行けない時に軽食をくれて、延長保育してもらった」「最近はなく、年少の時に結構延長することがあったが快く了承してくれた」「アプリでお迎え時間変更をすれば、延長保育にならない時間帯までは問題なく、延長保育になる時間帯は利用したことがないのでわからない」などがあった。</p>                  |    |    |   |   |
| 6. 安全対策が十分取られていると思うか   | 28 | 15 | 3 | 0 |
| <p>「はい」が60.9%、「どちらともいえない」が32.6%、「いいえ」が6.5%となっており、「はい」の値は前回(44.6%)から改善されている。自由意見は15件で、「部屋には誤飲やケガになりやすいものはなく、避難訓練も頻繁に行われている」「たびたび転んでケガをしているが、のびのびと過ごしているのでよいと感じ、大きなケガにつながらないよう、危険なことはさせないように気遣ってもらっているのかと思う」のほか、設備面や保育中の安全管理、感染症対策、虫刺され対策等について、気になる点や要望が挙げられている。</p> |    |    |   |   |
| 7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か   | 43 | 3  | 0 | 0 |
| <p>「はい」が93.5%、「どちらともいえない」が6.5%となっており、「はい」の値は前回(52.3%)からの顕著な改善が見られる。自由意見は6件で、「土日休みのタイミングで行事を入れてくれるのでありがたい」「仕事の調整が利くように、登園や迎えの時に前もって教えてくれたり、事前に配信してくれるので助かる」「かなり早めに日程を知らせてくれ、事前にアプリでアンケートや注意書きを展開してくれるため準備がしやすい」などのほか、行事の開催時間や準備物の連絡時期などについて、さらなる配慮を望む声があった。</p>     |    |    |   |   |
| 8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか   | 40 | 5  | 0 | 1 |
| <p>「はい」が88.9%、「どちらともいえない」が11.1%となっており、「はい」の値は前回(56.9%)から顕著な改善が見られる。自由意見は7件で、「家庭内でも子どものことで迷った時は保育園の先生に相談してみようとなり、アドバイスはいつもとても参考になっている」「どの先生も優しく話しやすい雰囲気、安心してやり取りできると感じている」「いつも些細なことまで気づいた点を報告してくれて助かる」などのほか、日頃の子どもの様子などに關する家庭との情報共有・交換について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>     |    |    |   |   |
| 9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか  | 33 | 10 | 3 | 0 |
| <p>「はい」が71.7%、「どちらともいえない」が21.7%、「いいえ」が6.5%となっており、「はい」の値は前回(47.7%)から改善されている。自由意見は12件で、「非常にこまめに掃除をしている」「きれいになっていて掃除が行き届いていると思う」「特に不潔と感じたことはない」のほか、各室内の清掃や衛生管理、設備の老朽化、職員の人員確保などについて、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>  |    |    |   |   |
| 10. 職員の接遇・態度は適切か   | 38 | 8  | 0 | 0 |
| <p>「はい」が82.6%、「どちらともいえない」が17.4%となっており、「はい」の値は前回(69.2%)から改善傾向が見られる。自由意見は6件で、「担任でなくても、いつも明るく声かけてくれる！」「皆さん挨拶もしてくれ、丁寧な言葉遣いだと思う」「どの先生も優しく挨拶してくれる」のほか、職員の身だしなみや執務中の携帯電話の取り扱いについて、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>  |    |    |   |   |

|   |    |    |   |    |
|---|----|----|---|----|
| 11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか  | 42 | 3  | 0 | 1  |
| <p>「はい」が93.3%、「どちらともいえない」が6.7%となっており、「はい」の値は前回(70.8%)から改善されている。<br/>                     自由意見は11件で、「体調がよくなさそうな時には電話をくれて対応してもらっており、園で様子を見られる程度でも、迎えの際にその日の様子を口頭で報告してもらえる」「家では気づかなかったケガや体調不良に先生方が気づいてくれることもあり、とても感謝している」「体調不良時の対応は丁寧だ」などのほか、ケガ等の把握・対応や保育中の安全管理、職員の人員確保について、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>   |    |    |   |    |
| 12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか   | 27 | 10 | 0 | 9  |
| <p>「はい」が73.0%、「どちらともいえない」が27.0%となっており、「はい」の値は前回(53.3%)から改善されている。<br/>                     自由意見は7件で、「玩具の取り合いや喧嘩はたまにあると聞き、先生たちは常に見てくれているので迎え時に細かくその時の状況を伝えてくれ、すぐに仲裁してくれているのがわかる」「こちらからの心配に対してすぐに対応してくれた」「こういったケースにまだ出くわしていないので非該当とした」などのほか、子ども間のトラブル発生時の保護者への情報提供や子どもへの対応について、さらなる配慮を望む声があった。</p> |    |    |   |    |
| 13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか   | 45 | 1  | 0 | 0  |
| <p>「はい」が97.8%、「どちらともいえない」が2.2%となっており、「はい」の値は前回(78.5%)から改善されている。<br/>                     自由意見は8件で、「慎重派で初めてのことは苦手なので、少しずつ慣れるように時間を作って、とてもありがたい」「キッズリーを通して子どもの様子を教えてくれ、その中での先生の対応は子どもの気持ちを大切にしてくれていると思った」「いつも子どもの様子、気持ちに合わせて対応してくれた」などのほか、職員の体制や子どもへの関わりなどについて、さらなる配慮を望む声が見られる。</p>               |    |    |   |    |
| 14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか  | 38 | 3  | 0 | 5  |
| <p>「はい」が92.7%、「どちらともいえない」が7.3%となっており、「はい」の値は前回(78.6%)から改善されている。<br/>                     自由意見には「他の子の話もしりしてあげるが、特定の名前を出したりしないので、配慮してもらっていると認識している」「他の家庭の事情や、誰がどんな病気にかかっている等、一切漏れないようにしてくれている」「通院のことなどは気遣って話してくれている」の3件が寄せられている。</p>  |    |    |   |    |
| 15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか   | 39 | 5  | 2 | 0  |
| <p>「はい」が84.8%、「どちらともいえない」が10.9%、「いいえ」が4.3%となっており、「はい」の値には前回(44.6%)からの顕著な改善が見られる。<br/>                     自由意見は5件で、「縦割り保育から異年齢保育に変わる時、保護者の中で混乱やいろいろな意見が飛び交ったが、何度も説明会を重ねてとても丁寧に対応してくれた」「アプリでできるようになったことや日々のエピソード、体調面でのこと等、かなりいろいろなことを教えてくれる」などのほか、保育内容等に関する保護者への伝達や職員の対応について、さらなる配慮を望む声があった。</p> |    |    |   |    |
| 16. 利用者の不満や要望は対応されているか  | 35 | 6  | 0 | 5  |
| <p>「はい」が85.4%、「どちらともいえない」が14.6%となっており、「はい」の値は前回(62.5%)から改善されている。<br/>                     自由意見は5件で、「すぐに対応してくれ、状況によって適切な方にエスカレーションしてくれている」「昼寝を短めにしたいと希望を伝えたら、即時対応してくれた」「努力はしてくれていると思う」「不満に感じることはないが、対応してくれると思う」などがあつた。</p>   |    |    |   |    |
| 17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか  | 18 | 12 | 4 | 12 |
| <p>「はい」が52.9%、「どちらともいえない」が35.3%、「いいえ」が11.8%となっており、「はい」の値は前回(35.5%)から改善されている。<br/>                     自由意見には「SNSで相談できることや、ネットの医療サービスのアプリを区で紹介していることを教えてくれた」「経験がない」「特に尋ねたことはない」「そこまで混み合った話はしたことがない」の4件が寄せられている。</p>  |    |    |   |    |

## I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

| No.   | 共通評価項目   |                   |
|---|--|-------------------|
| カテゴリー1  |  |                   |
| 1   | リーダーシップと意思決定   |                   |
| サブカテゴリー1(1-1)   |  |                   |
| 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている   |  | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 |
|   |  | 7/7               |
| 評価項目1<br>事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している  |  |                   |
| 評点(〇〇)  |  |                   |
| 評価  | 標準項目   |                   |
| ●あり ○なし   | 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている                               | ○非該当              |
| ●あり ○なし   | 2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている                        | ○非該当              |
| 評価項目2<br>経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている  |  |                   |
| 評点(〇〇)  |  |                   |
| 評価  | 標準項目   |                   |
| ●あり ○なし   | 1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている                            | ○非該当              |
| ●あり ○なし   | 2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している | ○非該当              |
| 評価項目3<br>重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している  |  |                   |
| 評点(〇〇〇)   |  |                   |
| 評価  | 標準項目   |                   |
| ●あり ○なし   | 1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている  | ○非該当              |
| ●あり ○なし   | 2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している   | ○非該当              |
| ●あり ○なし   | 3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている                                       | ○非該当              |
| カテゴリー1の講評   |  |                   |
| <p>法人共通に掲げる保育の理念などについて、保護者との共通理解の形成に努めている</p> <p>子どもたちが、今後の日本や世界の社会と生活の変化の中でもたくましく生きる力を自ら育み、「せいかいのごこにいても豊かに生きることが出来る人」へと育つ、その基礎を培うことを、法人共通の理念に掲げている。またその実現に向け、「これまで持っていた”子ども像”の既成概念を振り払い、それぞれの子どもの一人の人間として尊重する、世界基準の教育を追求」することを標榜している。これらについて、保護者には見学・入園時の説明のほか、園・クラス便りや保護者懇談会での園の保育のさまざまな発信などを通じ、共通理解の形成を図っている。</p> <p>経営層が「子どものために」を旨とし、現場との協同を重視した園運営に取り組んでいる</p> <p>職員には上記の法人の目指す保育や子どもの育ちのあり方などについて、法人による入職時とその後の各研修や、年度開始時の園長からの説明などにより、継続的な周知を図っている。また園長・主任が日常の現場への指導や、園としての判断・決定の主導的役割を担い、現場の意見を否定せず受容し、どうすべきかを一緒に考えることをマネジメントの基本姿勢としている。「子どものために」を常に発想の前提とし、子どもにとっての最善を考えることを折に触れて現場に伝え、子どもの発達への理解などの専門性を組織的に高めることを課題と考えている。</p> <p>園としての意思決定と、必要な情報を職員や保護者に周知させる手順が定められている</p> <p>各種行事はそれぞれの担当係により、保育は各クラス内の話し合いによって、日々の現場の実務における諸課題の検討を行っており、園長・主任もこれらに同席し、必要な支援を行うことで、上記の現場との協同のもとでの園運営につなげている。また園全体としての意思決定は、案件に応じ、常勤者による毎月の職員会議や、園長・主任と各クラスリーダーによる幹部会議で行い、決定事項等は議事録や出席者からの各クラスでの報告により、他の職員に周知される。保護者には連絡通信アプリでの配信を基本に必要なに応じ書面も用い、各種の重要事項を伝えている。</p> |  |                   |

|               |   |                              |
|---------------|---|------------------------------|
| カテゴリー2        |   |                              |
| 2             | 事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行                              |                              |
| サブカテゴリー1(2-1) |   |                              |
|               | 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している                       | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 <b>6/6</b> |
|               | 評価項目1<br>事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している              | 評点(〇〇〇〇〇〇)                   |
| 評価            | 標準項目  |                              |
| ●あり ○なし       | 1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している | ○非該当                         |
| ●あり ○なし       | 2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している                             | ○非該当                         |
| ●あり ○なし       | 3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している                        | ○非該当                         |
| ●あり ○なし       | 4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している        | ○非該当                         |
| ●あり ○なし       | 5. 事業所の経営状況を把握・検討している                                   | ○非該当                         |
| ●あり ○なし       | 6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している               | ○非該当                         |

| サブカテゴリ2(2-2)  |   |                  |
|---|---|------------------|
| 実践的な計画策定に取り組んでいる  |   | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 |
|   |   | 5/5              |
| <b>評価項目1</b><br>事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している   |   | 評点(〇〇〇)          |
| 評価  | 標準項目  |                  |
| ●あり ○なし   | 1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している                              | ○非該当             |
| ●あり ○なし   | 2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している  | ○非該当             |
| ●あり ○なし   | 3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている  | ○非該当             |
| <b>評価項目2</b><br>着実な計画の実行に取り組んでいる  |   | 評点(〇〇)           |
| 評価  | 標準項目  |                  |
| ●あり ○なし   | 1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している | ○非該当             |
| ●あり ○なし   | 2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる                                    | ○非該当             |
| <b>カテゴリ2の講評</b><br><b>保護者・職員の意向の把握や、それらも参考とした各種計画の作成がなされている</b><br>保護者参加の行事後に行うウェブアンケート、保護者懇談会での意見交換、毎日のコミュニケーションや定期・随時の個別面談などを通じ、園の運営や保育・行事などに対する保護者の意向を把握している。職員の意向は前述の各会議と業務内外の会話、定例で年4回設ける個別の面談などから把握するほか、経営層には人事考課の際に現場職員からの評価が行われ、寄せられた意見が内容に応じ、法人を通じて経営層に伝えられる仕組みとなっている。これらは事業計画のほか、保育・行事などの日常業務に関する各種の計画の立案の際に参考とされている。 |   |                  |
| <b>地域の状況や行政・業界の動向の把握、法人と連携した園の経営状況の管理を行っている</b><br>区の私立保育園園長会や保・幼・小の連絡会、雷谷地域の公私立園が集う保育施設会議への参加のほか、自治体・法人の各種発信や法人内系列園園長会などを通じ、区内・地域内の保育・教育や子育て等に関する状況や、関連する行政・業界の動向を把握している。また入園前の見学等で未就園世帯を対象に、園選びで重視する点などを尋ねるアンケートを実施し、ニーズ把握の参考としている。園の予算の作成とその執行管理など、園の経営状況の管理は法人本部が主導して行い、法人・園間で、状況の共有や必要な協議・決裁がなされている。                       |   |                  |
| <b>中・長期と年度の重点課題等を示す各計画の作成と、「園考課」による評価を行っている</b><br>5か年の「中長期経営計画」に、施設設備及び乳児・幼児の保育を中心に各年度の重点課題を記載しており、同計画は当年度を起点に毎年度更新する仕組みとなっている。また同計画も踏まえ、年度の事業計画に、保育や子育て支援、給食・食育の充実に関する方針・取組、保健や職員の研修、会議や渉外活動などの概要・予定、職務分担表のほか、経営層の園・組織運営における年度の「所信」を記載している。これらも反映して法・園が行う「園考課」では、各項目に設定される3段階の目標を指標に、半期ごとに評価を行い、達成度を測る仕組みとなっている。              |   |                  |



| カテゴリ-3   |   |                           |
|--|---|---------------------------|
| 3 経営における社会的責任  |   |                           |
| サブカテゴリ-1(3-1)  |   |                           |
| 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる                     |   | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2      |
| 評価項目1<br>社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる |   | 評点(〇〇)                    |
| 評価   | 標準項目  |                           |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるように取り組み、定期的に確認している。               | <input type="radio"/> 非該当 |
| サブカテゴリ-2(3-2)  |   |                           |
| 利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている                                  |   | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4      |
| 評価項目1<br>利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている          |   | 評点(〇〇)                    |
| 評価   | 標準項目  |                           |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている                        | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある                                 | <input type="radio"/> 非該当 |
| 評価項目2<br>虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている                               |   | 評点(〇〇)                    |
| 評価   | 標準項目  |                           |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している   | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし | 2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている   | <input type="radio"/> 非該当 |

| サブカテゴリ-3(3-3)  |  |                         |
|--|--|-------------------------|
| 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている  |  | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況<br>5/5 |
| <b>評価項目1</b><br>透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる  |  | 評点(〇〇)                  |
| 評価   | 標準項目   |                         |
| ●あり ○なし  | 1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる              | ○非該当                    |
| ●あり ○なし  | 2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの受け入れ体制を整備している                  | ○非該当                    |
| <b>評価項目2</b><br>地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている   |  | 評点(〇〇〇)                 |
| 評価   | 標準項目   |                         |
| ●あり ○なし  | 1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている               | ○非該当                    |
| ●あり ○なし  | 2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している | ○非該当                    |
| ●あり ○なし  | 3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる                   | ○非該当                    |
| カテゴリ-3の講評  |  |                         |
| 法人による各種研修や人事考課などを通じ、職員に規範意識の向上が促されている<br>職員には入職時に、子どもや保護者への適切な接遇、就業規則に定める社会人・職員としての各種の服務規律などの徹底が促され、階層別の研修でも1年目職員への接遇に関する啓発がなされている。また各職員の人事考課には、挨拶・マナーや規律の遵守、協調性などに関する項目が設けられ、評価が行われるほか、法人による「園考課」の際に、保育者の子どもへの言動や園内の美観などについて、法人の幹部が視察と必要な指導を行っている。10月の職員会議では見学者の指摘を踏まえ、外来者や保護者の目を意識した身だしなみの最適化を促している。 |  |                         |
| 保護者の意向への対応や、虐待等の防止に関する園内の体制を整えている<br>いわゆる不適切保育の防止の徹底を図るため、園長が保育士団体のチェックリストをもとに現場の子どもへの言動などを確認している。また区及び法人の虐待の防止・対応に関するマニュアル・規程を常備し、虐待等が懸念される子ども・家庭の在籍時には、関係職員間で状況を共有し、必要に応じて関係機関と連携して対応している。日常の送迎時の交流などから保護者の意向の把握に努めるほか、苦情解決制度を整備し、区の福祉オンブズマン制度とともに保護者に周知を図っており、案件に応じた個別の相談の実施など、要望・苦情等への最善の対応を図っている。 |  |                         |
| 地域との交流・連携に取り組み、子育て家庭への支援の拡充を課題としている<br>実習生・職場体験生の受け入れ、ホームページや大田区を通じた情報発信など、地域への透明性の確保を図るとともに、区の私立保育所園長会や地域内の保・幼・小の連絡会、雪谷地域の公私立園が参集する保育施設会議を通じ、保育・教育施設間の連携に参画している。地域の子育て家庭などへの支援は、見学等で来園する未就園世帯への相談対応を行う程度となっており、園の有力な保育の資源である園庭を活用した取組をはじめ、地域の子育ての支援の拡充を図り、地域内での園に対する認知と評価の向上にもつなげたいと考えている。            |  |                         |

| カテゴリ4  |  |                      |
|--|--|----------------------|
| 4 リスクマネジメント  |  |                      |
| サブカテゴリ1(4-1)   |  |                      |
| リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる  |  | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5 |
| 評価項目1<br>事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる   |  | 評点(00000)            |
| 評価   | 標準項目   |                      |
| ●あり ○なし  | 1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている | ○非該当                 |
| ●あり ○なし  | 2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている   | ○非該当                 |
| ●あり ○なし  | 3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している  | ○非該当                 |
| ●あり ○なし  | 4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる                         | ○非該当                 |
| ●あり ○なし  | 5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる                                 | ○非該当                 |
| サブカテゴリ2(4-2)   |  |                      |
| 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている   |  | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4 |
| 評価項目1<br>事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている  |  | 評点(0000)             |
| 評価   | 標準項目   |                      |
| ●あり ○なし  | 1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている                    | ○非該当                 |
| ●あり ○なし  | 2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している  | ○非該当                 |
| ●あり ○なし  | 3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている                                      | ○非該当                 |
| ●あり ○なし  | 4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している                  | ○非該当                 |
| カテゴリ4の講評   |  |                      |
| <p>担当委員会による各種重要リスクに関する検討など、安全の確保と向上に取り組んでいる</p> <p>組織内に「事故防止委員会」を設置し、経営層と各クラスの担当職員が毎月会議を行い、水遊び・熱中症や避難訓練の振り返りを含む防災面、園庭整備や散歩時の安全確保、各種感染症予防など、種々の重要リスクに関する話し合いと対策の検討を行っている。また同委員会が中心となり、園内研修で事故防止に関するマニュアルの周知に取り組み、睡眠・水遊びや飢餓・誤飲、アレルギー・けいれん対応その他、事故防止の留意点について組織内で研修を図っている。毎月の職員会議では、看護師が保健衛生面の種々の注意喚起や、各月の事故の報告を行っている。</p> <p>不審者侵入や各種災害への対策、日常の事故の防止のための種々の取組がなされている</p> <p>不審者の侵入に備え、対策訓練や敷地内各所のカメラ監視を行うほか、毎月の避難訓練では、登園後から夕方までの各時間帯を想定し、災害時の対応や保護者との連携を確認しており、11月の職員会議では散歩時の災害発生を想定して留意事項・対策を話し合っている。また子どものケガなどの保育中の事故に関する原因・対策等の検討や、年度途中から注力しているヒヤリハットの収集と共有、これらの事例の現場への周知など、日常の事故防止にも努めている。BCP(事業継続計画)については、感染症に関する法人作成の計画を常備している。</p> <p>各種情報の適切な管理・利用と漏洩の防止を図るため、仕組みと環境を整備している</p> <p>就業規則に電子・書類の各種情報の管理や機密保持に関する規定を設け、職員には入職時、実習生等には活動開始前に、これらに関連する啓発を行っている。また法人の規程やホームページにも掲載される個人情報保護方針に、利用目的や開示・訂正等の請求への対応を含め、個人情報の取り扱いの原則を示している。重要書類や端末機器類の施設管理、端末やソフトウェアのログイン制限、電子データの法人内の共用サーバでの管理・共有と端末への非保存など、漏洩の防止にも配慮し、保護者には入園時に、子どもの氏名・肖像の利用に関する同意を確認している。</p> |  |                      |

| カテゴリ-5                                    |  |                        |
|---|--|------------------------|
| 5 職員と組織の能力向上                              |  |                        |
| サブカテゴリ-1(5-1)                             |  |                        |
| 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる |  | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12 |
| 評価項目1<br>事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている     |  | 評点(〇〇)                 |
| 評価  | 標準項目   |                        |
| ●あり ○なし                                   | 1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している                                    | ○非該当                   |
| ●あり ○なし                                   | 2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる           | ○非該当                   |
| 評価項目2<br>事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している      |  | 評点(〇〇)                 |
| 評価  | 標準項目   |                        |
| ●あり ○なし                                   | 1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている         | ○非該当                   |
| ●あり ○なし                                   | 2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している    | ○非該当                   |
| 評価項目3<br>事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる     |  | 評点(〇〇〇〇)               |
| 評価  | 標準項目   |                        |
| ●あり ○なし                                   | 1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している                             | ○非該当                   |
| ●あり ○なし                                   | 2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している                      | ○非該当                   |
| ●あり ○なし                                   | 3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している                       | ○非該当                   |
| ●あり ○なし                                   | 4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている            | ○非該当                   |
| 評価項目4<br>職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる         |  | 評点(〇〇〇〇)               |
| 評価  | 標準項目   |                        |
| ●あり ○なし                                   | 1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賞金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている              | ○非該当                   |
| ●あり ○なし                                   | 2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる | ○非該当                   |
| ●あり ○なし                                   | 3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる                                | ○非該当                   |
| ●あり ○なし                                   | 4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている                                 | ○非該当                   |

| サブカテゴリ-2(5-2)   |  |         |
|---|--|---------|
| 組織力の向上に取り組んでいる  | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況   | 3/3     |
| 評価項目1<br>組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる   | 標準項目   | 評点(〇〇〇) |
| 評価  | 標準項目   |         |
| ●あり ○なし   | 1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している                      | ○非該当    |
| ●あり ○なし   | 2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている | ○非該当    |
| ●あり ○なし   | 3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる                     | ○非該当    |
| カテゴリ-5の講評   |  |         |
| <p>法人共通の人材確保と各種労務管理の仕組みを整え、さらなる環境向上を課題としている</p> <p>法人が採用特設サイトでの情報発信と質問・エントリー受付、各種養成機関・関連業者との連携など、多様な方法で人材の確保に努め、各園の状況に応じた配属・異動を行っている。配置は各クラスの保育や子どもの状況などを踏まえて最適化を図り、異動・配置とも各人の意向も参考としている。各種労務管理の仕組みや、所定の時間内の退勤を原則とする「定時出勤定時退社制度」など、労働環境面の整備にも努めている。職員自己評価では関連する項目の集計値・自由意見とも、働く環境に関する課題が示されており、法人とも連携して改善を図る意向である。</p> <p>法人共通の能力・職責の指標と「360度評価」制度を設け、各人の成長を支援している</p> <p>法人共通の職員の育成・処遇の仕組みとして、上下相互に評価を行う「360度評価」制度が設けられており、項目として職位・職種ごとに求める能力・職責が設定され、各職員は自身と上位者に望まれる能力や職責を、考課を通じて確認する仕組みとなっている。また各職員が半期単位で自身の目標を設定するとともに、所定の項目に基づく自己・上司評価と園長との面談により、進捗や成果を確認しており、考課と処遇との連動により、意欲の向上にもつなげている。新人・後輩の指導にあたるリーダー層には、法人内の階層別研修に関連の研鑽の場を設けている。</p> <p>法人内の多様な研鑽や職場環境の改善など、保育の質と組織の活力の向上を図っている</p> <p>経験・職位や職種に応じた研鑽や、わらべ歌やコダーイ保育などの法人の保育の重要エッセンスに関する、各種の法人内研修が設けられ、年間計画に各研修の受講者を付記している。また各クラスで現状の課題を抽出し、外部講師による視察と、講師を交えた話し合いを通じて保育の充実を図る「合同保育研修」も設けられている。これらを含む法人内外の各種研修を通じ、各職員の研鑽を促すほか、職員に職場環境等に関するアンケートを実施し、意向の把握と改善の検討を行い、意見への回答を書面で職員に発信するなど、組織の活力の維持と向上にも努めている。</p> |  |         |

| カテゴリー7   |  |
|--|--|
| 7 事業所の重要課題に対する組織的な活動   |  |
| サブカテゴリー1(7-1)  |  |
| 事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている  |  |
| <p>評価項目1<br/>事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)</p>  |  |
| <p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p> <p>昨年度の事業計画では、法人共通の保育理念に謳う、子どもたちの「自分の目で見て、自分の手で確かめ、自分の頭で考え、自分の言葉で意志を伝えられる」力の育みを目指し、子どもの自由な遊びと発達を保障するための保育者の関わりと環境の充実、昨年度から開始の異年齢保育において、子どもたちが見通しを持って生活できるような日課の確立や、2歳児までの担当制保育のさらなる浸透と環境整備などを重点課題とした。またそれらの実行の前提となる、組織内での上記の理念の周知と浸透や、園内外での職員の研鑽の促進と、その園でのフィードバックの強化にも取り組むこととした。</p> <p>幼児向けには外部講師の来園による「COE(コーディネーションエクササイズ)」や造形教室、「ハッピータイム」を実施するとともに、実践後に講師を交えて保育者間で振り返りを行い、活動の充実と保育者の知見・技術の向上を図った。乳児の担当制保育については会議や日々の現場で経営層が随時指導を行い、異年齢保育についても、すでに行っている系列園の取組から学ぶ機会を設けたり、会議での話し合いを随時行うなどした。</p>   |  |
| 目標の設定と取り組み   | <input checked="" type="radio"/> 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った<br><input type="radio"/> 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった<br><input type="radio"/> 具体的な目標が設定されていなかった                     |
| 取り組みの検証  | <input checked="" type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った<br><input type="radio"/> 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)<br><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である |
| 検証結果の反映  | <input checked="" type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた<br><input type="radio"/> 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない<br><input type="radio"/> 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である                     |
| <p>評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p> <p>上記に加え、法人内外の研修の受講によって各職員の学びを深めたほか、園庭の環境の整備と充実にも注力した。外部の指導者の助言のもとで、鉄棒やジャングルジム・昇り棒などの従来の遊具を撤去し、プール上部や木の根元へのウッドデッキの設置、子どもたちが自由に昇り降りし、ステージなどとしても利用できるテーブル状の台など、木製の設備を職員のDIY作業も交えて設置した。また外周柵の外の道路部分に掛かっていた樹木を伐採し、その切り株を活用した新たな木製遊具の製作も行ったほか、卒園制作として園と子どもたちが協力し、ボルダリング設備も設置している。</p> <p>会議や内外の研修などによる職員の研鑽や園庭の環境の充実は、経営層は保育の質の向上に成果をもたらしたと考えており、上記の遊具等の制作の際のDIY作業は、職員間のコミュニケーション促進の機会ともなった。昨年度開始の異年齢保育は、保護者との相互理解を円りつつ進め、顕著な苦情が寄せられることもなく進めることができた。法人の理念に謳われる保育の実践には、クラス間でばらつきも見られ、それらも課題として、今年度の事業計画では昨年度の重点課題を踏襲し、引き続き保育の充実や職員の研鑽などに努めている。</p> |  |

## 評価項目2

事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)

## 前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)

上記「評価項目1」に既述の通り、昨年度から幼児では異年齢保育を開始しており、法人の保育理念などへの理解のもとで、新たな保育形物の導入によって生じる諸課題を随時把握・検討し、質の向上につなげるとともに、それらを主体的に担うことのできる保育者の育成も急務となった。

そのための対応として、園長・主任と各クラスリーダーによる幹部会議(ミーティング)を中心に、職員が集い、各参加者が持ち寄る現場の諸課題について、随時話し合いを行った。

5月には保育理念の読み解きと、子どもへの関わり等における望ましい姿の検討を行い、理念の示す保育のあり方への理解を深めることに取り組んだ。また6月には「見守る保育って何」、7月には乳児・幼児の保育の基準の明確化と共有を目的として、2歳児までの担当制保育について、定義の理解や食事・手洗い・着脱・排せつ・睡眠の各場面での援助などについて、理念と参照しつつ考察を行った。また9月にはクラスごとの保育の日課について、クラス間で観察と意見交換を行い、10月には「自由保育とは？」と題した課題の共有と話し合いを行うなど、毎月テーマを設け、課題の共有と解決に取り組んでいる。

## 目標の設定と取り組み

- 具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
- 具体的な目標を設定したが、その達成に向けて取り組みが行われていなかった
- 具体的な目標が設定されていなかった

## 取り組みの検証

- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
- 目標達成に向けた取り組みについて、検証を行っていなかった(目標設定を行っていなかった場合も含む)
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

## 検証結果の反映

- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
- 次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させていない
- 設立後間もないため、前年度の実績がなく、評価対象外である

## 評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評

上記の過程では、ビデオ動画をを用いた話し合いも適宜採り入れたほか、組織・クラス内の個別の人間関係やいわゆるチームビルディング、働き方改革や新人育成などに関する悩み等の共有なども議題とし、子どもの自由な遊びと生活を保障する中で行う、子どもたちへの規律・規範面の啓発などについても、話し合いを行っている。

階層ミーティングでの話し合いは、参加者がそれぞれの担当クラスで学びや決定事項等を他の職員に伝える形で、組織全体に周知を図った。経営層は年間を通じた一連の研鑽を通じ、保育の中で大切にすべき事柄を上位職者が随時考え、話し合いのもとで対策を練ることができたと認識している。課題としては、それらの成果を実際の保育の中で実践できていたかについて、経営層などによる確認や点検の仕組みも設けておく必要があったと考えている。

昨年度から開始の異年齢保育をはじめ、保育の実践と職員の研鑽の両面で、さらなる向上の必要性が認識されており、保育と子どもたちの状況を随時把握し、柔軟な思考で充実に取り組む意向である。

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

| No.   | 共通評価項目                                       |                  |                           |
|---|--|------------------|---------------------------|
| サブカテゴリ1   |  |                  |                           |
| 1   | サービス情報の提供                                    | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 | 4/4                       |
| 評価項目1<br>利用希望者等に対してサービスの情報を提供している   |  | 評点(〇〇〇〇)         |                           |
| 評価  | 標準項目   |                  |                           |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし  | 1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している             |                  | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし  | 2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている |                  | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし  | 3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している                   |                  | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし  | 4. 利用希望者等の問い合わせや見学要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している |                  | <input type="radio"/> 非該当 |
| サブカテゴリ1の講評  |  |                  |                           |
| <p>ホームページやパンフレットで、保育の大切にすることや内容などを発信している</p> <p>法人のホームページ(以下、「HP」)が作成されており、系列園共通の目指す保育の姿や大切にすることや保育内容などを示すとともに、各園のページも設けられ、園の基本的な情報が紹介されている。園のパンフレットには、法人や園の概要、保育理念や目指す保育・教育の姿のほか、就学支援プログラム「ハッピータイム」や「COE(コーディネーションエクササイズ)」、わらべ歌といった主な活動内容の紹介と、年間行事予定などが掲載されており、これを見学者等に配付している。</p> <p>行政との連携を図り、園のさまざまな情報を公開している</p> <p>行政に園の情報を提供しており、区のHPでは入園手続き関連の情報のほか、各園の定員の空き状況等が随時公開されている。また区内に所在する保育園ごとの専用ページが設けられており、当園の基本情報、保育目標や活動内容などが紹介されるほか、区が発行する「ほいくガイド」にも園の保育理念や保育目標、特徴的な活動や年間行事などの情報が掲載されている。その他、定期的に第三者評価を受審しており、「とうきょう福祉ナビゲーション」でその結果を公表している。</p> <p>利用希望者等の見学を随時受け付けており、丁寧な説明と対応に努めている</p> <p>利用希望者や地域の方から見学の問い合わせがあれば、感染症が流行していない限り、随時、受け付けている。主活動が見られる平日10時を中心として行っているが、見学希望者の都合に応じて可能な範囲で対応している。当日は園のパンフレット等を渡し、園内を案内して子どもたちの様子を見てもらい、保育の理念や方針、異年齢保育や育児担当制、わらべ歌などの保育の特色などをその良さや理由を説明をしている。また延長保育の利用方法や料金、保護者参加の行事など、利用希望者の求める内容の回答など、丁寧な対応を心がけている。</p> |  |                  |                           |



| サブカテゴリー2  |  |                   |     |
|---|--|-------------------|-----|
| 2   | サービスの開始・終了時の対応                                   | サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 | 6/6 |
| 評価項目1<br>サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている   |  | 評点(〇〇〇)           |     |
| 評価  | 標準項目   |                   |     |
| ●あり ○なし   | 1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している     | ○非該当              |     |
| ●あり ○なし   | 2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている                   | ○非該当              |     |
| ●あり ○なし   | 3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している              | ○非該当              |     |
| 評価項目2<br>サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている  |  | 評点(〇〇〇)           |     |
| 評価  | 標準項目   |                   |     |
| ●あり ○なし   | 1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している | ○非該当              |     |
| ●あり ○なし   | 2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している           | ○非該当              |     |
| ●あり ○なし   | 3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている | ○非該当              |     |
| サブカテゴリー2の講評   |  |                   |     |
| <p>視覚的な工夫をしたうえで、利用開始にあたっての重要事項を保護者へ説明している<br/> 入園が内定した方に対しては、説明会を実施している。「上池台保育園のしおり」に沿った内容を視覚的にわかりやすいようにスライドでまとめ、園の概要や保育理念・保育方針、異年齢保育や「COE」「ハッピータイム」などの活動のほか、保健や給食等に関する内容、園からの依頼事項などを説明している。またその場で質疑応答や補足の説明を行ったり、面談の際にも適宜答えるなどして、不明点がないようにしている。これらのうえで、重要事項説明や個人情報利用などに関する同意を書面で得ている。</p> <p>子どもに関するさまざまな情報を把握し、入園後の支援に活かしている<br/> 入園前面接では子どもや家庭の状況、保護者の意向等を確認している。保護者が記入・提出した児童調査票などの書類をもとに、世帯状況や保護者の勤務先、入園前の子どもの生活・発育の状況などを把握している。また所定のシートをもとに、アレルギーや既往歴、子どもの特性や様子などを聴き取るほか、「慣れ保育」の実施の有無や実施期間などを相談し、日程を定めている。食物アレルギー等がある場合は、園での必要な対応に備え、詳細な確認を行っている。これらは会議において職員間で情報共有を図り、入園後の支援・配慮に活かしている。</p> <p>入園時や卒園時など、環境変化に伴う不安軽減に配慮している<br/> 環境変化に伴う子どもの負担軽減の目的とした「慣れ保育」の相談を保護者と行っている。保護者の就労や子どもの集団生活の有無などを確認し、1週間程度を一つの目安として、子ども・保護者にも無理のない程度で段階的に園に慣れてゆけるよう日程を調整しており、可能な方には保護者と一緒にクラスの空間や担任に関わる機会も設けている。利用終了後の支援の継続として、卒園児にいつでも園に来てほしい旨を動画で伝えるほか、懇談会や送迎時の会話などを通じ、就学に向けた保護者の不安解消に努めている。</p> |  |                   |     |

| サブカテゴリ-3   |  |                            |
|--|--|----------------------------|
| 3  | 個別状況の記録と計画策定   | サブカテゴリ毎の<br>標準項目実施状況 12/12 |
| <b>評価項目1</b><br>定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を<br>個別のサービス場面ごとに明示している |  | 評点(〇〇〇)                    |
| 評価   | 標準項目   |                            |
| ●あり ○なし  | 1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している                             | ○非該当                       |
| ●あり ○なし  | 2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している                                      | ○非該当                       |
| ●あり ○なし  | 3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている   | ○非該当                       |
| <b>評価項目2</b><br>全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している                                      |  | 評点(〇〇〇〇〇)                  |
| 評価   | 標準項目   |                            |
| ●あり ○なし  | 1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している | ○非該当                       |
| ●あり ○なし  | 2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている                            | ○非該当                       |
| ●あり ○なし  | 3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている            | ○非該当                       |
| ●あり ○なし  | 4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している   | ○非該当                       |
| ●あり ○なし  | 5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている                                 | ○非該当                       |

|   |   |                           |
|---|---|---------------------------|
| <b>評価項目3</b><br>子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している   |   | <b>評点(〇〇)</b>             |
| <b>評価</b>   | <b>標準項目</b>   |                           |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし  | 1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある                           | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし  | 2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している | <input type="radio"/> 非該当 |
| <b>評価項目4</b><br>子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している   |   | <b>評点(〇〇)</b>             |
| <b>評価</b>   | <b>標準項目</b>   |                           |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし  | 1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している                 | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし  | 2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している        | <input type="radio"/> 非該当 |
| <b>サブカテゴリ3の講評</b>   |   |                           |
| <p><b>子どもの日々の体調や生活リズムを把握し、成長や発達を定期的・継続的に記録している</b></p> <p>日々の子どもの体調は視診や検温、保護者との対話や連絡帳の記述内容から把握しており、情報は記録簿や口頭によって職員間で共有している。発達や生活リズムに個人差のある乳児期については、育児担当制を採り入れ、生活面の援助を行う職員を決め、個々の状況に細やかに応じられるようにしており、個人日誌や個人別の計画を活用している。子どもの成長・発達については継続的な記録を行っており、体格的な成長は毎月行う身体測定から把握・記録し、心身の発達に関しては、アプリケーションを用いて3か月に一度、主な発達の現れを確認・記録している。</p> <p><b>全体的な計画をもとに、長期・短期の各指導計画を策定し、保育を実践している</b></p> <p>全体的な計画をもとに、年齢別の長期的な年間指導計画を策定し、短期的な計画に展開して実践する仕組みとしている。年間指導計画では、子どもの成長の流れや見通しなどの長期的な視点に立ち、全体的な計画に掲げた子どもの姿に照らし、季節的な要素も踏まえながら、ねらいや内容を明らかにしており、月間指導計画はより保育実践への活用度を高めるため、子どもたちの様子を踏まえつつ、ねらい・配慮・環境について、年齢別に発達を加味して記載している。計画は周期ごとに評価・反省を実施して、次の計画につなげることとしている。</p> <p><b>子どもの状態を職員間で共有し、保育内容を保護者に伝え、理解を得よう努めている</b></p> <p>保育計画の策定は、担任・園長・主任で行う毎月のクラス会議で、子どもに関する情報を共有したうえで行うこととしている。3歳以上児については、集団としての育ちや活動の展開に関する視点を中心に話し合いが行われることが多い点を踏まえ、一人ひとりの成長や心情についてもできる限り話題に採り上げて話し合い、子どもの多面的な姿を受けとめ、援助・配慮に活かせるよう、経営層が随時助言している。また保護者に週日案を配信するほか、年間指導計画を提示し、年2回の保護者懇談会では保育目標や成長の見通しなどを伝え、共通理解につなげている。</p> |   |                           |

| サブカテゴリ-5  |  |                           |
|---|--|---------------------------|
| 5   | プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重                                   | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/5      |
| 評価項目1<br>子どものプライバシー保護を徹底している  |  | 評点(〇〇)                    |
| 評価  | 標準項目   |                           |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし  | 1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし  | 2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている                              | <input type="radio"/> 非該当 |
| 評価項目2<br>サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している  |  | 評点(〇〇●)                   |
| 評価  | 標準項目   |                           |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし  | 1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している                           | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし  | 2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている                     | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし  | 3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている        | <input type="radio"/> 非該当 |
| サブカテゴリ-5の講評   |  |                           |
| <p>子どものプライバシーや羞恥心を踏まえた支援と、情報の適切な取り扱いに配慮している</p> <p>子どものプライバシーや羞恥心への配慮として、排せつの援助の際には他から見えないような場所で行うほか、身体測定や水遊びの着替えの際にも周囲からの視線を遮るようにしている。また着替えの援助の際には上下ともに脱がないようにし、自分で着替えられる子どもたちにもその旨を伝えている。プライベートゾーンの大切さなどについても、羞恥心の芽生えには個人差があることを踏まえ、理解に応じた伝え方を心がけている。子どもの情報を外部への提供する必要がある場合には、そのつど保護者の同意を確認することとなっている。</p> <p>子どもの状況の把握と個別の支援、一人ひとりを大切にする保育の実践に努めている</p> <p>入園時の面談及びその後の会話を通じて、各家庭の方針や価値観などを把握し、可能な範囲で一人ひとりの支援に役立てるほか、子どもの状況や生活リズムなどの変化が見られれば、クラス内で共有し、それぞれに応じた配慮に努めている。また乳児に対して、育児担当制を採り入れ、子どもの一人ひとりの意思やペースに合わせた生活面を中心とした援助ができるように努めている。その他、保育理念等に「一人ひとりを大切にする保育」を定め、職員の振り返りの際にも法人の倫理規範に沿った行動ができているかを確認し、自戒を促している。</p> <p>虐待防止の対応に備え、必要に応じて職員間で共有と見守りを行うこととしている</p> <p>区及び法人の虐待の防止・対応に関するマニュアル・規程を常備するほか、保護者の気になる事項や配慮事項などを面談を通じて把握し、内容によっては職員間で共有し、園全体での見守りを意識できるようにしている。また会議において保育施設での虐待の報道を紹介しつつ、各自での意識啓発を促すほか、自園での子どもへの関わりや困っている部分を話し合い、一緒に解決できる機会を設ける旨を12月に園長から伝えているが、人権擁護や虐待防止等の定期的な研鑽機会の設定とその実践は、今後の取り組むべき課題となっている。</p> |  |                           |

| サブカテゴリ-6   |   |                           |
|--|---|---------------------------|
| 6  | 事業所業務の標準化   | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況<br>5/5   |
| 評価項目1<br>手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている   |   | 評点(〇〇〇)                   |
| 評価   | 標準項目  |                           |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし   | 1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている           | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし   | 2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている              | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし   | 3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している                    | <input type="radio"/> 非該当 |
| 評価項目2<br>サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている  |   | 評点(〇〇)                    |
| 評価   | 標準項目  |                           |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし   | 1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている                       | <input type="radio"/> 非該当 |
| <input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし   | 2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている | <input type="radio"/> 非該当 |
| サブカテゴリ-6の講評  |   |                           |
| <p>「事故防止委員会」が中心となり、マニュアルの作成と周知を図っている</p> <p>「事故防止委員会」が中心となり、水遊びや熱中症、震災時の対応、園庭整備、避難訓練の振り返り、散歩、嘔吐処理などの安全対策と啓発を行うこととしている。熱性けいれんやアレルギー対応、土曜日の事故対応など、事故防止マニュアルを定め、全職員に周知を図るほか、SIDSや誤嚥のリスクを含めて会議等の際に職員に注意喚起を行っている。各種マニュアルはデータ管理を行っているが、誰でもすぐに必要なものを必要な時に確認ができるよう、フォルダ・ファイルの整理と、職員への周知の工夫が今後の課題と考えられる。</p> <p>さまざまな意見や状況を踏まえ、その解決のための活動を進めている</p> <p>さまざまな意見や状況を踏まえた改善に取り組んでいる。行事レジメのフォーマットの変更や、土曜日の勤務時間の見直しのほか、アレルギー手順が見直され、会議にて周知を図っている。また職員会議前に各クラスや部門が報告事項を入力しておくことで会議時間の効率化に努めている。その他、「ものを大事にする」というテーマで、各部屋の現状や子どもの姿とそれに対する援助・声掛けなどを共有しつつ、みんなで考える機会を設けたり、年度当初の美化運動の活性化と再開を目指し、「チーム3S(整理・整頓・清掃)」を12月に発足させている。</p> |   |                           |

## Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ-6-4)

| サービスの実施項目   |  | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 | 35/35 |
|---|--|------------------|-------|
| サブカテゴリ4   |  |                  |       |
| サービスの実施項目   |  | サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 | 35/35 |
| 1 評価項目1<br>子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている   |  | 評点(〇〇〇〇〇〇)       |       |
| 評価  | 標準項目   |                  |       |
| ●あり ○なし   | 1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている                  | ○非該当             |       |
| ●あり ○なし   | 2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している             | ○非該当             |       |
| ●あり ○なし   | 3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している                    | ○非該当             |       |
| ●あり ○なし   | 4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している | ○非該当             |       |
| ●あり ○なし   | 5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている           | ○非該当             |       |
| ●あり ○なし   | 6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】<br>小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している        | ○非該当             |       |
| 評価項目1の講評  |  |                  |       |
| <p>子どもの興味や発達の状況の把握と、保育環境の工夫に努めている</p> <p>子どもが自分で成長する力を信じ、大人がやってあげるのではなく、自分でできる・遊べる環境を整えていくことを大切にしており、子どもの興味・関心や成長・発達の状況の把握に努めている。子どもたちの状況は3か月に一度、発達指標を用いて把握し、保護者との対話や連絡帳を通じて、家庭での様子や生活面・情緒面の状況についても把握できるようにしている。把握した情報をもとに、玩具の種類・量のほか、置く場所の高さにも配慮し、机上で遊ぶものについては、机のそばに置くなど工夫しており、発達に合わせた玩具の手作りにも取り組んでいる。</p> <p>担当制保育や異年齢保育によって、子どもたちの心の成長を促している</p> <p>2歳児までは、生活面の援助を行う保育者と子どもの組み合わせを概ね固定する育児担当制を採り入れ、一人ひとりの特性や性格などを踏まえた応答的な関わりを心がけ、安心して大人と関わりを持つ経験を重ねることで、人との関わりを主体的に持つことのできるコミュニケーション力や、人への関心を寄せる心の基礎を育んでいる。また3歳以上児では、年齢の異なる子どもたちが生活と遊びをともにする異年齢保育を採り入れ、互いに刺激し合い、助け合い、時には摩擦を体験しながら、意欲を高め、優しさや年齢相応の自覚などの心の成長を促している。</p> <p>発達段階に応じたトラブルへの援助や、幼児の就学に向けた各種活動がなされている</p> <p>トラブルへの対応では、保育者が双方の気持ちを受けとめ、代弁したり仲立ちしたりするほか、幼児クラスでは子どもたち同士のやり取りを見守り、必要に応じて話題の整理などの援助を行ったり、みんなで話し合う時間を設けている。また就学までの3年間をかけ、「ハッピータイム」と題したプログラムを採り入れており、就学後の集団活動の中で自分のことや気持ちを表現し、他人のさまざまな気持ちに気づける心を育めるよう取り組んでいる。運動会後からは、就学を見据え、発達相応の体験ができるように、5歳児と3・4歳児を分けて実施している。</p> |  |                  |       |

| 2 評価項目2   |   | 標準項目 | 評点(〇〇〇〇) |
|---|---|------|----------|
| 評価  | 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている        |      |          |
| ●あり ○なし   | 1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している                     |      | ○非該当     |
| ●あり ○なし   | 2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している |      | ○非該当     |
| ●あり ○なし   | 3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している                 |      | ○非該当     |
| ●あり ○なし   | 4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている               |      | ○非該当     |
| 評価項目2の講評  |   |      |          |
| <p>登園時に子どもの体調を把握し、休息は個々の求めに応じて取れるよう配慮している</p> <p>登園時には受け入れの担当者が視診を行って、健康面の状況を把握し、目に見える範囲の傷の有無を確認しており、保護者から家庭での様子を聴き取るようにしている。各クラスに申し送り用の組織を設置し、保護者から伝え受けた内容や保護者に伝えるべき内容を職員間で共有し、降園時の確実な伝達につなげている。把握した子どもの状況を踏まえ、休息は個々の必要に応じられるようにしており、身体を横にできる場所を確保している。0歳児については個別のベビーベッドを用意し、発達や体力に応じ、異なる睡眠のリズムで寝られるよう環境を整えている。</p> <p>生活能力の獲得に向けた援助は、個々の心身の状況に合わせて行っている</p> <p>生活してゆくうえで必要となる能力の獲得に向けた援助は、一人ひとりの身体機能等の発達や意欲などを踏まえ、保護者とも連携を図りながら行っている。心身の発達が著しく、身近にいる大人との愛着関係から、人間関係の基礎を育む時期でもある2歳児までは、担当制保育を採り入れており、決まった大人が排せつ・食事・入眠・着脱等の生活面の援助を行うことで、子どもの発達や情緒の状況を踏まえた、丁寧な援助につなげている。排せつの自立の援助では、排便間隔や意欲を踏まえ、食事の援助では咀嚼・好み・利き手などを踏まえて行っている。</p> <p>生活習慣の習得への援助は、子どもの主体性・自発性を尊重しつつ行っている</p> <p>1歳児から、自分のものを自分のロッカーから出し入れできるよう、着替えは扱いやすい量を保護者に用意してもらい、置き方も工夫し、手洗いでは手順を示すイラストを手洗い場に掲示している。自分で着替えようとする際には、その様子を見守り、咳エチケットやトイレの使い方・玩具のしまい方などについては、意味を伝えたり、問いかけたりするなど、子どもたちが思い起こせるような援助を行っている。また異年齢保育を実践する中では、教える様子やまねようとする姿が見られるなど、子どもたち同士の自発的な「見て学ぶ」自然な関わりが持たれている。</p> |   |      |          |

| 3 評価項目3<br>日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している   |   | 評点(000000) |
|---|---|------------|
| 評価  | 標準項目  |            |
| ●あり ○なし   | 1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている                     | ○非該当       |
| ●あり ○なし   | 2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している                             | ○非該当       |
| ●あり ○なし   | 3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している | ○非該当       |
| ●あり ○なし   | 4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている                                  | ○非該当       |
| ●あり ○なし   | 5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている           | ○非該当       |
| ●あり ○なし   | 6. 生活や遊びを通して、子どもがさまじりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している | ○非該当       |
| 評価項目3の講評  |   |            |
| <p><b>子どもが遊び込めるよう環境構成を工夫し、興味や関心を促す「課業」を行っている</b><br/>                 子どもたちが自由に遊びを選び、遊び込めるよう、玩具や絵本などの保育教材は発達を踏まえたものとし、手作り玩具なども採り入れている。また遊びが必要以上に混じらないよう柵や机を配置するなど、空間構成の工夫にも努めている。法人共通の「課業」と呼ばれるプログラムを展開しており、美術・文学・数・わらべ歌などの活動を通じて、子どもたちが日々の経験がどうしたことなのかという思考の抽象化や整理を学び、身の回りの環境の認識につなげられるよう行われており、経験を認知につなげてゆくことで、新たな興味や関心が促されている。</p> <p><b>発語を促し、言葉を使って表現することを体験できる機会をさまざまに設けている</b><br/>                 子どもの発語を促し、自分の考えを言葉で表現することの楽しさや、相手とコミュニケーションを取ってわかり合う喜びを体験できるよう、さまざまな活動が行われている。言葉を獲得する前の子どもへの援助では、動作や感覚を言葉にしながらか援助し、喃語や指差しなど、子どもから発せられる言葉以前のコミュニケーションに対しても、保育者は言葉を使って応答している。また手遊びや絵本の読み聞かせを行い、課業の文学では劇に取り組むほか、まごことやごっこ遊びなど、言葉を使った活動を採り入れ、多くの言葉や表現に触れられるようにしている。</p> <p><b>制作やわらべ歌などの表現活動や戸外活動を採り入れ、感性や体力を培っている</b><br/>                 制作活動は道具や技法を体験できるよう、季節的なものをテーマにして、発達に応じた内容で採り入れ、行事で使うものをみんなで使ったり、自由制作を楽しめる環境を整えたりしている。またわらべ歌の活動を採り入れており、日本語表現や独特のリズムに触れるだけでなく、0・1歳児ではコミュニケーション力を育むほか、2歳児になると、決まりを守って遊ぶ楽しさを体験する集団遊びの始まりとなっている。好天時には園庭遊びや散歩を楽しんでおり、季節を感じるほか、かけっこやボール遊び、縄跳びなど身体を使った遊びや運動に取り組んでいる。</p> |   |            |



| 4 評価項目4<br>日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している   |   | 評点(〇〇〇) |
|--|---|---------|
| 評価   | 標準項目  |         |
| ●あり ○なし  | 1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している               | ○非該当    |
| ●あり ○なし  | 2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している                     | ○非該当    |
| ●あり ○なし  | 3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている | ○非該当    |
| 評価項目4の講評   |   |         |
| <p>行事は子どもたちの興味や関心を踏まえ、主体的に取り組めるようにしている</p> <p>行事を実施する際には、「行事レジメ」を作成して、ねらいや流れ、準備物を明らかにし、導入では、行事の意味や楽しさを伝えるほか、子どもたちが興味や関心を寄せていることを採り入れて、主体的に取り組めるようにするなどの工夫に努めている。運動会では異年齢競技に取り組んでおり、前述の課業のテーマである「職業」に関連し、ごっこ遊びを楽しむ様子から、障害物競走と職業当てクイズや制服遊びを合わせた種目を設けている。また幼児の遠足では動物園に出かけており、事前に動物園のマップや動物園鑑を展示し、期待が高まるようにしている。</p> <p>運動会や発表会では、課業等の日々の活動から展開させた演目に取り組んでいる</p> <p>運動会では、徒競走・外部講師と保育者が連携して行う体操プログラムの内容を採り入れたサーキット運動・年齢別の競技のほか、異年齢で行う競技に取り組んでいる。5歳児の競技では、積み木遊びを楽しむ様子から、段ボールを高く積むゲームを行っており、子どもたちがグループに分かれ、作戦を練り、意見を出し合い協力しながら、高さを競っている。また異年齢の競技では上記の課業から展開する子どもたちの遊びを競技の形式にしている。発表会においても、日々の活動を行事に展開させており、わらべ歌の発表や、文学の課業から劇に取り組んでいる。</p> <p>季節の行事や誕生会など、さまざまな行事に取り組み、取組の様子を保護者に伝えている</p> <p>伝承行事や季節感のある祭事に取り組んでおり、行事にまつわるエピソードやいわれ、文化的な習慣や背景などを伝え、これらのものをモチーフにした制作活動に取り組む、行事食を提供している。七夕では短冊に願いを込め、「新年子ども会」では羽つきや福笑いを、節分では豆まきと職員が扮する鬼の退治を楽しんでいる。ハロウィンでは仮装し、クリスマスではサンタからプレゼントをもらっている。「就学お祝い会」や誕生会など、みんなで成長したことを喜ぶ行事も実施しており、各種行事への取組の様子や過程については、便り等で保護者に伝えている。</p> |   |         |

| 5 評価項目5<br>保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている   |  | 評点(〇〇) |
|---|--|--------|
| 評価  | 標準項目   |        |
| ●あり ○なし   | 1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている              | ○非該当   |
| ●あり ○なし   | 2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている | ○非該当   |
| 評価項目5の講評  |  |        |
| <p>保育時間が長くなる子どもたちが健康的に過ごせるよう、環境の工夫や配慮を行っている</p> <p>保育時間が長くなる子どもたちが、ゆったりと健康的に過ごせるよう、人的・物的環境の配慮に努めている。午前寝のほか、朝の早い子どもや夕刻の眠気に対応できるよう、身体を横にすることのできる場所と見守りの保育者の確保に配慮するほか、登園時の視診や検温などの健康観察を行い、水分補給も適宜行っている。また夕方の少人数の時間などに、子どもが不安になったり、寂しくなったりする場合には、保育者がスキンシップを図り、絵本を読むなど、1対1での対応を心がけ、保育者の手伝いを頼むなど、特別感を味わえるようにしている。</p> <p>一日の活動のバランスを図り、安全な園生活のための保育内容や環境の工夫に努めている</p> <p>午前中の活動の強度が高い場合や、行事に向けた取組が続いている時などには、子どもの疲れ等に応じ、静かに過ごせるようマットを敷くなどの工夫のほか、午睡明けに、気分転換も兼ねて身体を動かせるよう、園庭での活動も採り入れている。また早朝や夕刻の時間帯は異年齢の合同保育になるため、細かい玩具は誤飲を防ぐために提供しないこととするほか、年上児には身体接触の危険を伝え、走り回らないこと等の約束事を確認するようにしている。補食や夕食の提供は遊びのスペースと区分して、静かに食べられるようにしている。</p> |  |        |

| 6 評価項目6<br>子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している   |   | 評点(0000) |
|--|---|----------|
| 評価   | 標準項目  |          |
| ●あり ○なし  | 1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している         | ○非該当     |
| ●あり ○なし  | 2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている                       | ○非該当     |
| ●あり ○なし  | 3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している      | ○非該当     |
| ●あり ○なし  | 4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている | ○非該当     |
| 評価項目6の講評   |   |          |
| <p><b>食事の提供においても、子ども一人ひとりの主体性の尊重に配慮している</b><br/>         乳児クラスは育児担当制を採用しており、一人ひとりの発達や好みなどを理解したうえで援助し、座位が安定しない子どもが姿勢を保って食事を摂れるように、必要に応じて足台も用意している。3歳以上児は、自分のリズムで食事を摂れるよう、一定の時間内であれば空腹を感じた時に食べられるようにしているほか、各テーブルに料理を設置し、自分で盛りつけて食べられるようにしている。また食の経験が失われないよう、苦手なものは誘いかけるが、無理をさせないようにするなど、食事の提供においても、子どもの主体性の尊重に配慮している。</p> <p><b>さまざまな食の体験ができる食事提供や、個々の状況に応じた援助を行っている</b><br/>         献立は旬の食材を用いた薄味とし、さまざまな料理を体験できるようにしている。喫食状況は日々確認し、月末の献立作成時には担当間で話し合いの時間をもち、子どもの様子に合わせた食事の提供につなげている。食物アレルギー対策では、テーブルを分けて専用のトレイと食器を用意するほか、名前・食材を記して視認性を高め、各提供段階において複数職員で確認するなど、誤食の防止に努めている。離乳食は、子どもの咀嚼や経験食材を踏まえたうえで段階を決め、初めての食材は家庭で試してもらったうえで、園で提供することとしている。</p> <p><b>子どもの食への姿勢や関心を育み、知識を伝える食育活動が行われている</b><br/>         食具は子どもの意欲や家庭での取組の状況を踏まえたうえで進めており、玩具の中に本物のスプーンを置いて、遊びながら下手持ちの経験ができるようにしている。夏野菜の栽培にも取り組んでおり、子どもたちが収穫を期待しながら水やりや観察を行うほか、うまく育たない体験を通じて、栽培の難しさや食材のありがたさを学んだり、失敗の原因を考えたりしている。また季節の行事の際には行事食を提供し、郷土料理・世界の料理も採り入れており、いつもとは違う料理の体験の機会とするほか、料理に関する掲示物を作成し、料理の意味や豆知識を伝えている。</p> |   |          |

| 評価項目7<br>子どもが心身の健康を維持できるよう援助している  |  | 評点(〇〇〇) |
|---|--|---------|
| 評価  | 標準項目   |         |
| ●あり ○なし   | 1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している              | ○非該当    |
| ●あり ○なし   | 2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている                     | ○非該当    |
| ●あり ○なし   | 3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている | ○非該当    |
| 評価項目7の講評  |  |         |
| <p>子どもが健康や安全に関心が持てるよう、さまざまに取り組んでいる</p> <p>日頃から生活の場面ごとで子どもが手洗いに取り組んでおり、年齢によって援助や声掛けをしたり、手洗いの大切さや必要性を伝えたりして、少しずつ習慣となるように支援している。またお茶やコップを準備し、活動の合間に適宜、水分補給ができるようにし、夏の熱中症の防止のみならず、日頃から自らの健康に意識が持てるようにしている。避難訓練の際には防災頭巾をかぶったり、セーフティゾーンに集まったりと、子どもたちが安全に避難する訓練を重ねるほか、防災に関するクイズをしたり、「おかしも」の約束ごとを確認したりしている。</p> <p>医師との連携を図りながら、子どもの発育の推移や健康状態等の把握と管理を行っている</p> <p>嘱託医による定期健診の際には子どもの発育と健康面の状況を確認してもらい、園でその記録を行うほか、その際に地域の感染症の情報を教えてもらったり、気になる事項の相談に応じてもらったりしている。また嘱託医との随時の相談体制を整えるとともに、ケガ等の発生時に近隣の医療機関への受診ができるようにしている。日頃の子どもの健康状態は保育者が観察や保護者からの聴き取りなどで把握しており、看護師と連携を図りながら、その日の状況の共有・把握を行い、日中の変化によって、適宜、必要な対応やケアを行うこととしている。</p> <p>子どもの健康維持に向け、感染症や保健に関する情報を保護者へ提供している</p> <p>保護者とは送迎時のやり取りを通じて子どもの体調や健康状態などを伝え合うほか、内科健診・歯科検診の結果及び身体測定の結果については、「健康カード」を通じて、保護者に伝えている。保健便りを毎月配信しており、季節ごとの感染症や生じやすいケガなどの留意点、家庭での予防法やケアなどについて掲載するほか、健康な生活習慣や身体づくり、スキンケアなど家庭で役立つ情報も提供している。また新型コロナウイルスに関しては、園便りで園での対応や感染予防対策などを知らせるほか、発生時には発生状況と今後の対応等をアプリで配信している。</p> |  |         |

| 評価項目8<br>保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている  |   | 評点(〇〇〇〇〇) |
|--|---|-----------|
| 評価   | 標準項目                                      |           |
| ●あり ○なし  | 1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている       | ○非該当      |
| ●あり ○なし  | 2. 保護者同士が交流できる機会を設けている                    | ○非該当      |
| ●あり ○なし  | 3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている            | ○非該当      |
| ●あり ○なし  | 4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている | ○非該当      |
| ●あり ○なし  | 5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している         | ○非該当      |
| 評価項目8の講評   |   |           |
| <p><b>各家庭の子育てや就労等の事情を把握し、さまざまな配慮を行っている</b></p> <p>各家庭の就労や子育て等の個別の事情は、入園時の確認のほか、その後の日々の会話や連絡アプリでのやり取り、個人面談等で把握し、個々の事情に応じた配慮ができるよう努めている。保護者の就労に対する支援として、延長保育や土曜保育の利用について柔軟な対応に努めるほか、希望者を対象とした年末保育も実施している。保護者参加の運動会・発表会・懇談会などの行事は土曜日に開催しており、年度当初に年間行事予定を知らせたり、園便り等で直近の予定を掲載するなどして、保護者の見通しや日程調整がしやすいような配慮も行っている。</p> <p><b>懇談会で子どもの様子や園の思いを共有し、保護者同士の交流も行っている</b></p> <p>懇談会を再開し、保護者との交流の場や意見交換の場を設けている。年度当初には一年間の目標や大切にしていきたいこと、子どもたちの様子などを知らせるほか、年度後半では年間の振り返りや進級・進学に関する話などを行っている。また配付資料を準備し、子どもたちの活動やその姿などが具体的にわかるように項目に分けたり、写真を添えたりして理解が深まるよう工夫している。保護者の自己紹介の際には、子どもの名前の由来やおすすめのスポットなど、テーマをもとに話してもらい、その後の交流のきっかけや会話が弾むような工夫も行っている。</p> <p><b>子どもたちの様子や育ちなどを保護者に伝え、行事等でも見てもらう機会を設けている</b></p> <p>懇談会でのさまざまな説明に加え、園・クラス便りでは月の予定を知らせるほか、子どもたちの様子とともに、行事・活動などの意図やわかりやすいなども記載し、連絡アプリにて保護者へ配信している。また年間を通じていつでも保育参加を受け付け、子どもの日頃の姿や園での様子を見てもらう機会を設けているが、利用促進のための周知を課題としている。今年度の運動会では乳児と幼児の2部制とし、保護者に見てもらう機会を設けるほか、発表会では0・1歳児も子どもたちの日頃から観る活動やわらべ歌などの様子を見て、一緒に楽しむ機会を設けている。</p> |   |           |

|   |   |        |
|---|---|--------|
| 9 評価項目9<br>地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている  |   | 評点(〇〇) |
| 評価  | 標準項目  |        |
| ●あり ○なし   | 1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している                    | ○非該当   |
| ●あり ○なし   | 2. 園の行事に地域の人参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している | ○非該当   |
| 評価項目9の講評  |   |        |
| <p>子どもたちがいつも違った体験や、職員以外の人と関わる機会がもたれている</p> <p>外部の方の関わりのもと、わらべ歌・「ハッピータイム」「コーティネーションエクササイズ」などといった表現や運動等の活動に取り組むほか、中学生の職場体験を受け入れ、職員以外の人と関わる機会となっている。幼児クラスの園外保育では、夢見ヶ崎動物公園に出かけ、園庭だけで知ることができない発見や体験できない遊具で遊んだり、ドングリや落ち葉などの秋の季節を感じたり、いつもと違った場所で保護者に作ってもらった弁当を食べる機会が得られている。</p> <p>夏のニジマスつかみを行うほか、コロナ禍以前には地域との交流を図っている</p> <p>夏の時期にはニジマスつかみどりを全クラスで行っている。生きている魚に触れる、魚の動きを観察するなどして魚の生態を知ること、捕まえた魚を食べて、命の大切さとありがたみを感じることをねらいとして取り組んでいる。またコロナ禍以前は、祖父母を招いて行う交流会や、特別養護老人ホームでの高齢者とのふれ合いのほか、福祉施設が行う紙すき体験への参加や、近隣の保育園との「2園交流」など地域交流を行っていたが、感染防止の観点から中断しており、今後のコロナ収束や状況の変化があれば、再開をしていきたいと考えている。</p> |   |        |

| 事業者が特に力を入れている取り組み① |   |                                |
|--------------------|---|--------------------------------|
| 評価項目               | 6-4-8   | 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている |
| タイトル①              | 保護者参加の行事を開催し、子どもの育ちや日頃の姿の共有に努めている   |                                |
| 内容①                | 運動会・発表会・懇談会等の行事は参加の見通しが持て、日程調整がしやすいよう、土曜日に設定するとともに、事前の予定のお知らせや、ウェブを用いた参加の意向確認を行っている。懇談会では子どもの様子や園の大切にすることなどを説明するほか、保護者同士の交流ができる場も設けている。また運動会では乳児と幼児の2部制で保護者に見てもらうとともに、親子競技で一緒に楽しめるようにするほか、発表会においても日頃子どもが親しむ活動やその様子を見たり、一緒に楽しむなど、行事を通じて、保護者と子どもの育ちを共有できるようにしている。 |                                |

| 事業者が特に力を入れている取り組み② |   |                         |
|--------------------|---|-------------------------|
| 評価項目               | 4-1-1   | 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる |
| タイトル②              | 「事故防止委員会」を起点として、現場の事故の予防や再発防止に注力している  |                         |
| 内容②                | 組織内に「事故防止委員会」を設置し、毎月の会議を起点として、安全・保健衛生面のさまざまな改善活動を行っている。事故防止と防災に関する各マニュアルについて、作成や周知のための園内研修や読み合わせを行うほか、防災については避難訓練の検証や、職員会議での散歩時の災害発生を想定した留意事項と対策の確認も行うなど、対応力強化を図っている。また現場のヒヤリハットの把握の活性化を課題として、記録様式の整備と各クラスへの啓発を行い、事例に基づく改善策の検討にも取り組み始めるなど、事故の予防・再発防止にも注力している。 |                         |

| 事業者が特に力を入れている取り組み③ |  |  |
|--------------------|--|--|
| 評価項目               |  |  |
| タイトル③              |  |  |
| 内容③                |  |  |

| No. | 特に良いと思う点     |   |
|-----|--------------|---|
| 1   | タイトル         | 異年齢の関わりの中で、年齢相互の育ち合いが促され、助け合いや摩擦の体験を通じて、思いを伝え合い、受け入れる大切さを学んでいる  |
|     | 内容           | 3歳以上児は各年齢の子どもたちが日々生活と遊びをともにし、年上児たちが関心を持って取り組むことに年下児が参加しようとしていたり、関心を持って観察したりする中で、遊び方や道具の使い方を学んだり、年上児が年下児を遊びに誘ったり、生活面の世話をするなど、年齢相互の育ち合いが促されている。また発達や性格の異なる子ども同士が関わる中で生じる摩擦やトラブルには、大人が善悪を判断するのではなく、双方の気持ち・言い分を聴き取り、つなぎ役・代弁者となることを心がけ、思いを伝え合い、受け入れる大切さを感じ取れるよう援助している。 |
| 2   | タイトル         | 発達の著しい2歳児までは育児担当制を採り入れ、子どもに安心感をもたらす、個々の状況に応じた適切な援助に努めている  |
|     | 内容           | 2歳児までは、生活面の援助をする大人を固定する育児担当制を採り入れ、同じ大人が関わることによって、安心感を得て過ごせるようにするほか、子どもの利き手・姿勢・咀嚼・好みなどを踏まえた、より丁寧な援助を行っており、援助の際には、見守りと介助のバランスを大切にしている。各保育者は、関わりが深まる中で、援助をし過ぎることによって子どもの体験を奪ってしまったり、逆に子どもの主体性を尊重し、必要な関わりを控え、援助のタイミングが遅れたりすることのないよう、子どもの発達や心情を把握した、適切な援助を心がけている。      |
| 3   | タイトル         | 表現力や身体機能全体の調整力を育み、子どもたちの環境認識を高める、さまざまな体験の機会を設けている   |
|     | 内容           | 「ハッピータイム」と題したプログラムでは、自分のことや気持ちを表現し、他人のさまざまな気持ちに気づける心を育めるよう取り組んでいる。また美術・文学・数・わらべ歌などの活動を通じて、日々の経験がどうしたことなのかという思考の抽象化や整理を身につけ、身の回りの環境の認識につなげられるよう、「課業」と呼ばれるプログラムを実施し、新たな興味や関心を促すとともに、ゲームなどを楽しみながら、さまざまな要素の運動を行う「COE(コーディネーションエクササイズ)」も採り入れている。これらの取組は行事にもつなげられている。   |
| No. | さらなる改善が望まれる点 |   |
| 1   | タイトル         | 園内での3S(整理・整頓・清掃)の徹底とその後の定着がなされるとともに、マニュアルの作成・更新と管理の方法などの向上に期待したい  |
|     | 内容           | 年度当初から園内の整理整頓と清掃を心がけ、「ものを大事にする」というテーマで、各部屋の現状や子どもの姿とそれに対する援助・声掛けなどを共有しつつ、みんなで考える機会を設けたり、美化運動の活性化と再開を目指したチーム活動を発足させたりしている。ただ、園内の環境改善の継続性や成果という点では改善の余地があり、今後の取組に期待したい。また、さまざまな取組や考え方・手順など、組織内での認識共有を図るためのマニュアルについても、再現性を高めるための作成・更新や、データ管理と共有のあり方なども一考されたい。        |
| 2   | タイトル         | 環境の充実が図られた園庭の活用をはじめ、園のさまざまな保育の資源を活かした地域への支援を検討し、取り組むことが期待される  |
|     | 内容           | 地域への施設機能の還元は、体制上の事情などもあり、見学で未就園世帯が来園した際の相談対応を行う程度となっている。近年の事業環境の変化から、継続的な園児の確保と定員充足が経営上の重要課題となりつつある点も踏まえ、園に対する認知と評価を高める目的からも、今後は地域向けの子育て支援にも取り組みたいと考えている。昨年度から環境の充実を図り、園における保育の重要な資源でもある園庭の活用をはじめ、企画の検討を進める意向であり、見学者の声などからのニーズ把握と併せ、取組の進展による地域支援の充実が期待される。        |
| 3   | タイトル         | 園の近未来を、経営層や現場と相互理解を図りつつ考えてゆく仕組みや、その検討を「どの程度先まで行うか」についても一考ありたい   |
|     | 内容           | 「中長期経営計画」に、当年度を起点とする5か年の重要課題を定める仕組みがある。運営のさまざまな面で、トップダウンによらず、現場との協働を図りつつ意思決定を行う方針としており、同計画や、その実行計画としての年度の事業計画の立案においても同様に行い、組織の方向性の共有や、各職員の当事者意識の喚起に活かすことも一考されたい。また諸事変化が著しく、先行きの不透明性も増しつつある近年の事業環境を考慮し、中長期経営計画の期間については、より見通しの利きやすい年数とすることにも検討の余地はあると思われる。          |